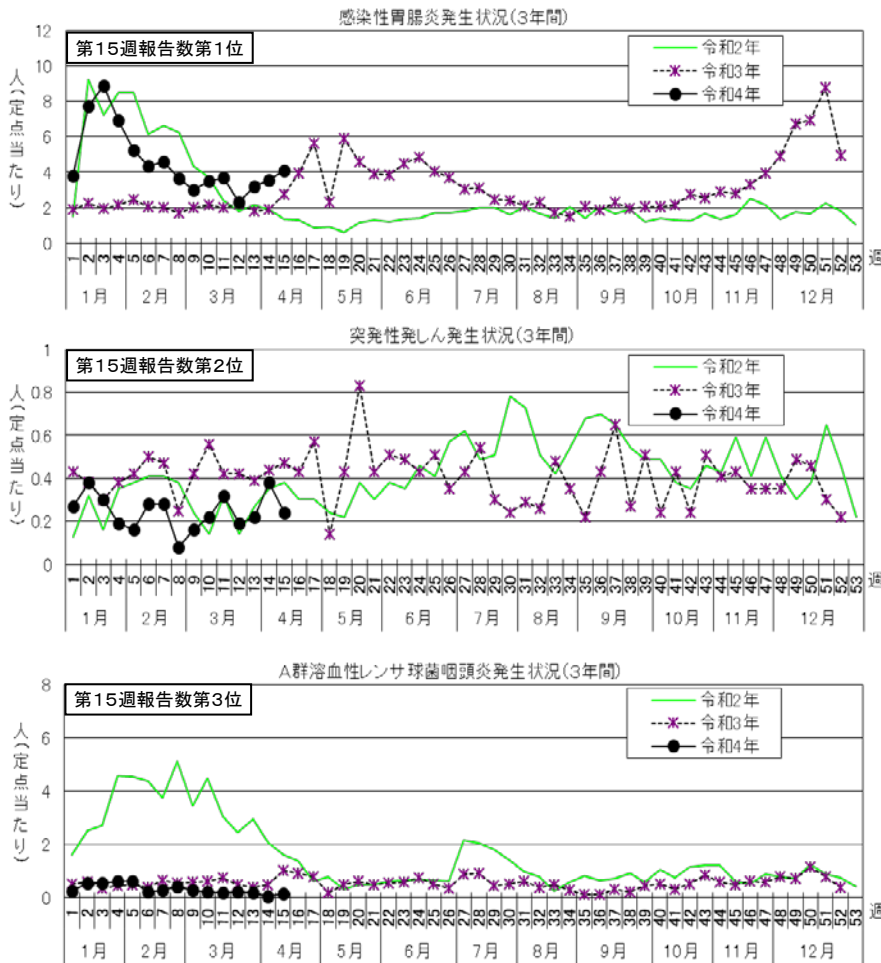


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月11日（月）～令和4年4月17日（日）〔令和4年第15週〕の感染症発生状況

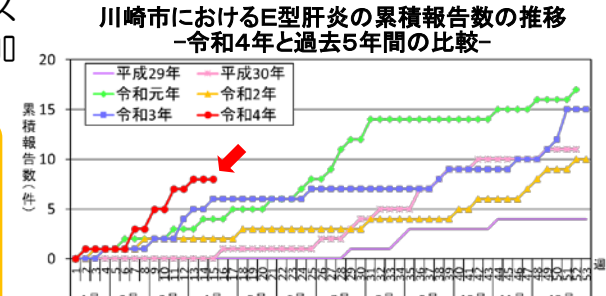
第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.11人と前週（3.57人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.14人と前週（0.03人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



E型肝炎の報告数が増加しています

川崎市における令和4年のE型肝炎の報告数は、第15週（4月11日～17日）までに計8件と、過去5年間と比較して最多となっています。平成29年以降の報告では、男性が全体の8割を占め、年齢階級別では40～60歳代の報告が66.2%でした。

E型肝炎は、主にE型肝炎ウイルスに汚染された食物、水等の摂取により感染するとされており、国内では生又は加熱不十分な肉等の喫食が原因と推定された事例も報告されています。ウイルスは加熱により死滅するため、肉は十分加熱してから食べましょう。



E型肝炎について

【病原体】
E型肝炎ウイルス（遺伝子型1～4型）

【潜伏期間】
15～50日（平均6週間）

【主な症状】
悪心、食欲不振、腹痛等の消化器症状、倦怠感、黄疸等

【主な推定感染原因】
生又は加熱不十分な肉等の喫食（豚しゃぶ、イノシシ肉、鹿肉等）

【予後】
比較的良好（致死率：1～4%）

妊婦が感染すると劇症化しやすく、致死率が25%に達することもあるといわれています。

